

20万分の1地質図幅の新刊

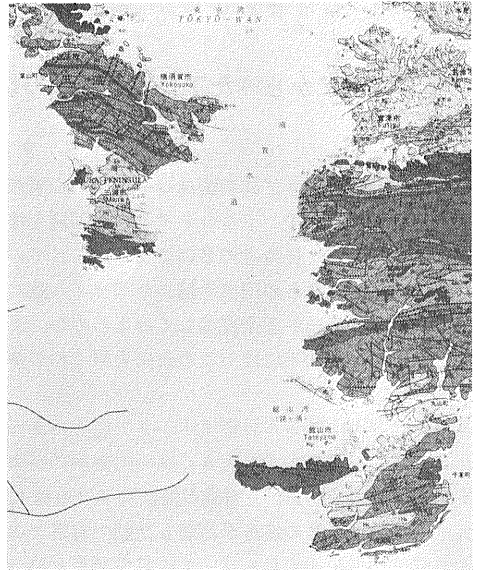
横 須 賀 YOKOSUKA

20万分の1地質図幅
地域地質研究報告

編集者 三梨 昂 (元 燃料 部)
小野 晃司 (環境地質部)
須田 芳朗 (物理探査部)

発行 工業技術院 地質調査所

取扱先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401



20万分の1「横須賀」図幅は 伊豆半島東部から 相模湾 大島 三浦半島 東京湾 房総半島の西南部を含む範囲をカバーしている。面積的には大部分が海域で占められているが 近年 地震予知の面から 南関東の「観測強化地域」に指定されている重要地域である。実際 1923年9月1日には いわゆる「大正関東地震」が 本図幅のほぼ中央の相模トラフ北部で発生した。

房総・三浦地域は 古第三紀(漸新世)の嶺岡層群と保田・葉山層群が半島中央部にほぼ東西に分布し 基盤を構成する。これらの土台を中心に南側と北側にむかって 東西性の帯状構造をもつ後期中新世の三浦層群 鮮新世一前期更新世の上総層群 中期更新世の下総層群そして後期更新世で風成のローム層および沖積層が順次発達する。岩相は主に砂岩・泥岩の互層で 三浦層群は半深海堆積物だが 上位ほど浅海堆積物となっている。各地層中には多数の火砕質凝灰岩の薄層が挟まっておりこれを鍵層として 層準の対比が細かく検討され 層厚の変化や岩相の変化が解析されている。

基盤をなす葉山・嶺岡の地塊を境にして 南部は 東西性の軸をもつ褶曲構造がよく発達する。一方北部はゆるやかに北側へ傾斜する単斜構造で 本図幅のさらに北方に発達する「関東構造盆地」の中心に連続する。これらの構造の境には 現在も活動的な地震断層や活断層が走っている。

大正関東地震を起した相模トラフの活断層は 陸上で 酒匂川の谷に沿う国府津—松田断層に続き これを境

に東西両側の地層は 同時代でありながら岩相・構造が全く異って 著しい対照をなしている。すなわち 基盤をなす 中新世の海底火山活動の産物である 湯が島層群・白浜層群から 最上部をなす第四紀の陸上火山群(南から天城・東伊豆・宇佐美・多賀・湯河原・箱根)まで圧倒的に火山岩が多い。房総・三浦半島におけるような東西性の褶曲はみられず 地層はブロック化している。伊豆半島北部 図幅西縁に近く 1930年北伊豆地震の際に活動した丹那断層(左横ずれ)が南北に走り それから多数の北西—南東方向の断層群が派生して これらは国府津—松田断層と同じく右横ずれ成分をもっている。

東伊豆単成火山群と火山島大島との間には多数の海底火山(図幅作成後 東伊豆沖海底火山群と命名された)がある。相模灘及び付近海底地質図(海洋地質図 No.3)にある多くの海底断層のうち 相模トラフに沿う断層だけが本図に表現されているが フィリピン海プレートとユーラシアプレートを分けるこの断層が ここでは多数の胴切り断層に切られた複雑な形態なのは興味深い。

地質ニュース	第320号	4月号
	定価 ¥540	千実費
昭和56年4月1日	発行	
編集	工業技術院 地質調査所	
発行人	林 久 雄	
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03) 265-0951(代表)	
	振替口座 東京 32466	
総発売元	大蔵省印刷局	政府刊行物仕入部
	東京都港区赤坂葵町2	
	Tel. (03) 582-4866	